

かめやま教育通信

第81回



学校・家庭・地域が一体となって、子どもたちの「生きる力」を育みましょう

学力には、テストの点数などで測ることができる「認知能力」と、「生きる力」のように数値で測ることができない人間力を表す「非認知能力」があります。

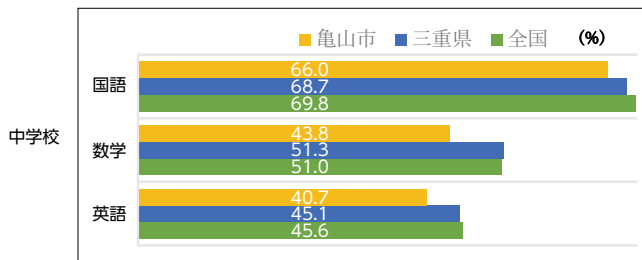
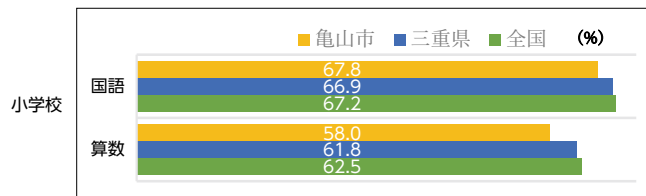
「非認知能力」は、「①粘り強く取り組む」、「②やり方を調整し工夫する」、「③円滑なコミュニケーションをとる」という3つの要素からなり、「認知能力」とともに、「非認知能力」を豊かにすることも求められています。

これからの教育では、2つの能力をバランスよく育成していくことが重要であり、それらを育成するためには、学校や家庭、地域との関わりが重要です。

本年4月に市内の小学6年生・中学3年生を対象に実施された「全国学力・学習状況調査」の結果(抜粋)

国語、算数・数学、英語の平均正答率

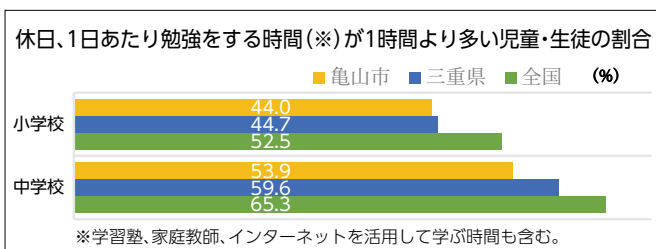
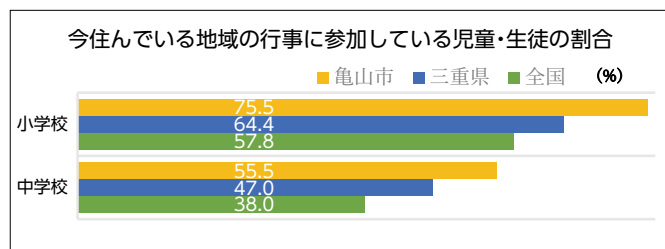
国語では、文章を書くことに重点をおいて学習に取り組んだ成果が見られました。一方、算数・数学では、グラフを読み取ったり、2つの数がともなって変わる関係を考えたりすることに課題が見られました。



児童・生徒の学習習慣や生活習慣

「今住んでいる地域の行事に参加している児童・生徒」や「学校に行くのが楽しいと感じている児童・生徒」の割合が全国平均と比べて高くなっています。令和4年度も全国平均を上回っており、自分の住んでいる地域に愛着があることや、楽しみながら学校生活を送っている児童・生徒が多いことがうかがえます。学校や地域との関わりが強さは「非認知能力」の育成と直結します。

一方、「休日、1日あたり勉強をする時間が1時間より多い児童・生徒」の割合が全国平均と比べて低くなっています。勉強をする時間が短い児童・生徒の方が、教科の平均正答率が低い傾向が見られ、生活習慣と学力には強い相関関係があると言えます。子どもが主体的・計画的に学習できるよう、学校と家庭が一体となって、学習習慣の確立に向けて取り組む必要があります。



子どもたちが学力(認知能力、非認知能力)を身に付けるために

学校	<ul style="list-style-type: none"> ・分かりやすく楽しい授業を行うために、日々授業づくりに取り組んでいきます。 ・1人1台端末を活用した授業で、個別最適な学びや協働的な学びを目指します。
家庭	<ul style="list-style-type: none"> ・お子さんが一生懸命頑張っているとき、お手伝いをしてきたとき、親切にしているときなどは、積極的にほめて声を掛けましょう。 ・お子さんが家で勉強しているときは、そっと見守ったり、一緒に考えたりしましょう。 ・子どもがゲームやスマートフォン、インターネットを適切に使用できるよう、子どもたちと話し合い、使用時間など家庭でのルールを必ず決めましょう。 ・毎日同じ時間に起床・就寝するなど、規則的な生活習慣を心掛けるようにしましょう。
地域	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の行事で頑張っている姿が見られたとき、きちんとあいさつをできたときなどは、あたたかい声掛けをお願いします。周囲の人に認められることで、「非認知能力」がより高まります。
教育委員会	<ul style="list-style-type: none"> ・かめやまお茶の間10選(実践)を活用して、子育て家庭を中心に啓発活動を行っていきます。 ・亀山市学力向上推進計画【第4版】を基に、授業力向上をサポートしていきます。